

博士論文

中学校教師が抱く信頼感と情動コンピテンスが
職場環境を介して生徒への指導行動に及ぼす影響

2022 年度

古田 伸子

東京成徳大学

論文概要

本研究では、中学校教師が自己や他者に抱く信頼感（自分や他人を安心して信じ頼ることができる気持ちである信念）と情動コンピテンス（自己や他者への情動を同定・理解，表現，調整，利用する能力）に焦点をあて、職場環境を介して生徒への指導行動にどのような影響を及ぼしているのか明らかにすることを目的とした。

全国の公立中学校に勤務する一般教諭（研究1～3は382名，研究4～6は433名）を対象に，質問紙調査・インターネット調査，インタビュー調査を行い，量的データに質的データを収斂させる混合研究法により分析を行った。

研究1と研究4の結果から，信頼感や情動コンピテンス，職場環境との関係に年代差が示された。また，同僚からのソーシャルサポートや学校組織風土の違いが信頼感や情動コンピテンスに影響を与えていることが明らかとなった。信頼感や情動コンピテンスを典型的に捉えた結果，自他への信頼および情動コンピテンス自己領域を高く認知している群が，職場の協働的風土を認識しやすいことが示された。

研究3では生徒への指導行動尺度を作成し，信頼感類型別の特徴を分析した。生徒認知の方法や指導行動に違いがあることが示された。

研究5では，新たに中学校の職場環境調査尺度を作成した。また，管理職の影響についても検討した。管理職の温かな声かけや励まし・笑顔が日常的に教師に伝わることや，問題発生時には管理職が責任をとると表明し的確な指示を出すことで安心感や信頼感につながり，若い教師の「こうなりたい」というロールモデルになっていた。

研究6では，職場環境を媒介要因として，信頼感と情動コンピテンスが生徒への指導行動に及ぼす影響を検討した。その結果，信頼感の否定的側面は，協働的風土であれば生徒への親和的・共感的な指導が促進さ

れることが示され、教師がネガティブな感情を抱いていても、教師集団の支え合いや高い職務意識がある職場では、生徒志向的な指導が高まることが明らかとなった。一方で、情動コンピテンス他者領域は、協働的風土にあると生徒への親和的・共感的な指導が減少した。情動コンピテンス他者領域は、他者の情動を利用する能力が含まれているため、協働的風土と認知すれば、生徒志向的な指導を未熟な教師に意図的に任せ、教師としての成長を促すなど教師集団の戦略的な意味が推察された。

本研究の意義は、現職教員および教員養成段階で自己理解を深めるための研修や指導に活用したり、指導に困難を抱えた教師にスクールカウンセラーがコンサルテーションを行う場合、教師の内的特性を把握する視点にしたりするなど、実践的意義と学問的意義が考えられた。本研究は、一般成人対象の尺度を使用したため、対人援助職である教師を対象とした尺度開発や、混合研究法における調査方法および分析において、量的・質的データを平等に重みづけして論じることができたかという点に限界と課題があると考えられた。